

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾

専門学校 麻生工科自動車大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針.....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況.....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法.....	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法.....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について.....	- 5 -
2. 基準項目について.....	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、専門学校 麻生工科自動車大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
業界関係者	市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社(代表取締役専務)	欠席
業界関係者	堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社(執行役員人事部長)	出席
業界関係者	芹澤 毅 ※1	ダイハツ工業株式会社(くるま開発本部 暮らしとクルマの研究部 暮らし研究室室長)	出席
職能団体	寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会(指導部部長)	出席
高等学校	佐伯 道彦	福岡工業大学附属 城東高等学校(学校長)	欠席
地域住民	村上 伸二	東比恵2丁目町内(元町内会会長)	出席
保護者等	西島 潤一	2級自動車整備科 保護者等	出席
卒業生	杉本 誠	平成22年度卒業生	出席
卒業生	武田 真秀子	平成22年度卒業生	出席

※区分別、敬称略

※1: 田中 裕之氏(ダイハツ工業株式会社)の代理

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2023年6月15日（木）15：30 ～ 17：00

場 所：専門学校 麻生工科自動車大学校 7階講堂

（※一部参加者はオンラインで出席）

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2022年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- S：適切
- A：ほぼ適切
- B：やや不適切
- C：不適切

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。
自動車業界は現在、自動車の動力の多様化と安全装置の技術革新の変革期にある。そのため業界から必要とされる技術者を育成することを目的に、各学科のカリキュラムをもとにカリキュラムツリーやカリキュラムマップを作成しディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの整合性をとり、体系的なカリキュラム編成を行う。
- ② 教育のデジタルトランスフォーメーション（DX、以下「DX」という。）化に向けた遠隔・オンライン教育に適した授業ツールを整備し教育用デジタルコンテンツを制作し活用する。
コロナ禍の影響により遠隔授業が増えたため、対面での授業に比べ、各学科の教職員において学生の理解度把握が困難になってきている。
遠隔授業下でも学生の理解度を向上させるために、グループで共有された授業ツールの活用と併せて、自校内でも遠隔・オンライン教育に適した授業ツールの整備を進めていく。
- ③ 留学生に対するサポート体制を整備する。
昨年以上に留学生の学校生活における様々な悩み、要望に応える事が出来る体制を整備する。

【取組み状況ならびに成果と課題】

- ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業を体系的に配置する。
カリキュラムは年度開始前に各学科で検討し修正しながら編成・実施している。カリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成については、1級自動車整備科のみ完成しており、今後は他学科の完成を目指し体系的な編成を行う。2020年4月の法改正（特定整備）に伴い、急遽それに準じた内容をカリキュラムに取り入れた。また、国より発表された自動車整備士資格制度の変更に伴い、今後はカリキュラム改編の為の情報収集を積極的に行う。
- ② 教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）化に向けた遠隔・オンライン教育に適した授業ツールを整備し教育用デジタルコンテンツを制作し活用する。
教育用コンテンツはデジタル化に長けた本校教務が先行して制作を行っている。教育用デジタルコンテンツの制作については一部の教員に留まっており、教員全体としての取り組みとしては不十分である。学生の理解度の把握や使用効率を向上させるため、情報収集を行う必要が出てきた。
- ③ 留学生に対するサポート体制を整備する。
留学生対象にアンケートを実施し、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。2020年に発足した「留学生会（麻生塾グループ校の一部に所属する留学生で構成する会）」を軸に、アルバイト情報の共有やボランティア清掃活動等留学生が主体となって活動出来る場が増えている。今後も適宜課題を吸い上げ、改善を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・整備・開発現場で使われているツールに慣れ親しんでいることは就業後大変有利です。3DCAD（スリーディーキャド、3次元コンピュータ支援設計）や故障診断ツールに関してはDX化が進むにつれてデファクトスタンダードが変わる可能性がある。販売会社や行政の情報に加え自動車製造側からの情報での確な更新が可能である。製造側からの情報提供につきましては随時行っていきたいと考えている。
- ・デジタルコンテンツでは双方向のやり取りが容易なため、弊社ではコンテンツの聴講後電子アンケートを実施することで受講と理解レベルの把握をセットで行うようにしている。授業でも取り入れてはどうか。
- ・カリキュラムツリー・カリキュラムマップについて、例年、1級自動車整備科のみ完成しているという風に記憶している。整備資格制度の変更を機に、2級自動車整備科、国際自動車整備科についても完成させていただきたい。
- ・DX化への取り組みは学校全体で取り組むべき課題だと思う。全教員が積極的に取り組めるような体制の整備と業務の改善を行っていただきたい。
- ・変革に対応した、素晴らしい重点項目と思う、益々のご発展を祈念する。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

1-1 法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念は明文化し、学校法人麻生塾のホームページで公表している。この法人の理念に基づいて、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定めており、学校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員及び学生に周知している。

【今後の取組み】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図るため学校ホームページにて広く社会に公表しており、変更等があれば随時対応する。

【委員の方からのご意見】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像等は、学校ホームページに明示されており、詳細リンクも容易にわかるため問題ない。
- ・各理念等を適切に策定できている。ステークホルダーに対して、web等で適切に周知を行えていると思う。今後の取り組みとして、教員や学生に対して“落とし込み”ができるような、制度の策定や整備に尽力いただきたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	定められた「法人の教育理念」を学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

2-1 学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【総括】

運営方針は学校の教育理念に沿って策定され、学校責任者が組織図や校務分掌を全教職員へ提示、共有し、組織の一体化を図っている。

【今後の取組み】

チャットやメールに頼って伝達を行う機会が多く、詳細な情報共有まで至らないケースもある。臨機応変に口頭でのコミュニケーションも増やしながら指導を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・多大な量のチャット、メールが特定の教員に集中することがある。メール量の棚卸をすることで、負荷が大きい方を見つけ、その方には上記コミュニケーションを密にする、情報の元となる業務を分散するなどの施策が打てる。
- ・策定された運営方針について、しっかりとしたPDCAを実施することで、良い学校運営が行えると思う。提示、共有だけでなく、評価の結果や改善点についても、共有をお願いしたい。

2-2 事業計画を作成し、執行しているか。

【総括】

運営方針に沿った事業計画を策定し学校責任者が年度当初に全職員向けに提示、共有し全員の意思を統一し、執行している。執行状況は教務会議で報告、検証されている。

【課題】

事業計画に沿った募集活動や授業形態が対面に戻りつつあるが、オンラインでの運用については一部の活動で十分な対策が取れていないことがある。

【今後の取組み】

運営方針や事業計画についてはこれまで通り執行状況を検証し修正を加えながら取り組んでいく。

【委員の方からのご意見】

- ・弊社では事業執行から年間個人目標に落とし込み3か月ないし6か月毎に達成度を上司部下で共有している。目標は外部要因などで修正することもあるが、共有することにより対応の良否が判断しやすく過去の振り返りも容易になっている。学校運営にも参考になるのではないか。

2-3 運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【総括】

法人としての組織運営、意思決定機関については、適切に機能している。また、別途、組織の課題を迅速に合議する常任理事会も毎月開催している。さらに、各校・各部の校長代行、部長以上が合議、情報共有を行う部門長会議など各階層別での必要な会議体が設計され、開催されている。

本校では、学校全体、役職者等、担当者別に全体教務会議、リーダー会議、管理職会議を定期的に行っている。確認事項、決定事項に問題はないが、急を要する事項について決定までに時間を要するケースがみられた。事務職員が配置されており、学校法人麻生塾経理グループによって処理される経理事務以外の事務は、学校の事務組織で処理している。

事務職員の資質・能力向上に関する取り組みとして、各職員が目標管理シートでチャレンジ目標を設定したうえで、職員それぞれが取り組んでいる

【課題】

会議体によって意思決定の権限が明確にされていない場合があった。

【今後の取組み】

各種会議の役割を明確化し、意思決定された場合の情報共有の方法や進捗管理を確立させる。

【委員の方からのご意見】

- ・今後の取り組みを実施することで類似会議の統合や決定事項執行のルーチン化による効率化が期待できると思う。
- ・意思決定については、“意思決定プロセス”に従ったものが適切だと思う。
- ・適切なステップを踏んで“意思決定”ができるように、会議体の内容を精査いただければと思う。

2-4 人事・給与に関する制度を確立しているか。

【総括】

雇用区分に対応した就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が整備されている。また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。採用活動に関しては採用管理システムの活用と採用規程および業務プロセスの整備により情報の一元管理や活動早期化、募集・選考の判断に対する適切な検証機能を有し、活動体制の強化が図られている。

【今後の取組み】

引き続き変化する法人方針や多様化する働き方に対応できるよう人事制度の改善や制度再構築に伴う諸規程整備を続けていく。

【委員の方からのご意見】

- ・働き方の変化が叫ばれている中で、学生を教育するという業務上、時間及び場所の拘束が強い職場であることは避けられない。その中で施策を進めるとともに職員への啓蒙活動も必要と考える。
- ・人事制度や職場環境などへの不満は、“仕事そのものへの不満”につながる衛生要因なので、現状の規程と実態とに乖離があるのであれば早急に改善が必要である。実現性のある制度のもとで業務が遂行されることで、従業員の不満を低減させ、適正・公正に評価を行うことでモチベーションを向上させるという2つのバランスが重要であると思うので、改革にご尽力いただきたい。

2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【総括】

学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、学校法人麻生塾独自の情報管理システムである麻生塾システムで広報・入試・学籍・教務・就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。

Microsoft Teams や Office365 により業務効率化は図られているといえるが、使用者によって得意不得意があるため、全職員の理解と作業効率の向上を図る必要がある。

【課題】

一部の職員は活用が図れているが、全職員の活用という段階まで至っていない。

【今後の取組み】

学内にてIT推進委員会が立ち上がっており、グループの垣根を越えて情報の共有化を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・麻生グループ内のIT人材活用は親和性が高く連携による効率化を一考してほしい。
- ・引き続きシステム活用を推し進めて業務効率化に努めてほしい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。また、適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A	A

3-1 教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

教育目標（育成人材像）に基づいた課程修了の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、それに基づき学則及び成績評価、進級および卒業に関する規程を併せて定めている。ホームページ等で明示し、学校構成員に周知するとともに、広く社会に公表している。その上で定期的に検証を行っている。

また、教育目標（育成人材像）に基づいたカリキュラム・ポリシーを明示し学校構成員に周知している。カリキュラム及び授業科目等の概要はホームページを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【今後の取組み】

社会や時代背景により「育成する人材像」は流動的に変化するため、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会にて企業・業界団体の意見を取り入れ、社会や企業のニーズに合った育成人材像を検討し、それに対応したカリキュラムを編成していく。

【委員の方からのご意見】

- ・適切に運用できていると思う。

3-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。

業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で学科・実習などの教育方法および適切な時間配分により十分な学習指導を行えているが体系的なカリキュラムマップの作成までには至っていない。

授業はシラバスに基づいて実施されており、授業報告書等はデータとして保管した上で学校構成員に周知を図っている。

専攻分野における実践的な職業教育として、全学科対象に企業の非常勤講師（自動車整備科1, 2級は2社、自動車工学・機械設計科は1社）による授業を実施している。また、企業でのインターンシップについても全学科で定期的実施している。

各学科とも1年次より「就職実務」の授業内での企業からの職種理解セミナーやOB・OG体験談などにより、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促している。

【課題】

学科によってカリキュラムマップが作成されていない。

業界の技術革新や整備人材ニーズを踏まえた自動車整備士資格制度等の見直しに対応するため、令和7年度から順次教科書の変更が予定されている。変更を見越したカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備が必要となっている。

【今後の取組み】

カリキュラムマップを作成する。

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う。

カリキュラムについては、資格制度変更や業界のニーズや新技術情報をタイムリーに収集し、教科書の改訂や時代背景に併せて適宜内容の変更を実施していく。

【委員の方からのご意見】

- ・自動車の自動化・電動化・カーボンニュートラルへの対応といった新しい知識も求められる。また e-fuel のような燃料置換によるエンジンの延命路線も明らかとなっており、従来からある整備技術の習得も依然求められている。限られた時間内に教育を行うためには、タイムリーに収集した変化点に対して IT ツールなどを用いた効率的な授業がより重要になると考えられる。生徒が容易に反復練習をできる、理解度を先生が定量化しやすい、など IT が得意とするところと手を動かして体で覚え、頭で理解する体感授業のバランスを時代の要請に合わせて柔軟に変えていくことが要求されていると考える。
- ・カリキュラムや教育内容に変更に伴い、実習教材や設備の整備を行うと思うが、多額のコストがかかるかと思うので、計画的な整備をお願いしたい。

3-3 教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業評価として、全教員及び非常勤講師を対象に年2回授業アンケートを実施している。アンケート結果は集計、分析後に各教員に結果を通知している。評価結果によって部門長による授業見学及び個別指導を実施し、授業改善を促しているが、部門長から各教員へのフィードバックは口頭での伝達に留まっている。

また、新任の教員対象にチューター制度を活用し、非常勤講師には担当教員制度を導入して、授業の評価と改善指導を行っている。

【課題】

アンケート結果を基に面談を実施しているが記録を残しておらず、その後の的確なフォローができていない。

【今後の取組み】

教育課程編成委員会議で上がった意見を基に教育改善に向けて検討を図る。

授業評価の結果についてフィードバック記録を残し、アンケート結果を参考に授業改善やクラス運営の改善に努める。

【委員の方からのご意見】

- ・面談結果の記録化は業務改善の第一歩である。記録を残さないと面談が完了しないとなるITの仕掛けが必要と考える。
- ・授業のDX化を進めるにあたって、授業評価の結果についてのフィードバックは“マスト”だと思う。
- ・健全なフィードバックサイクルの策定をお願いしたい。

3-4 成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

成績評価、進級および卒業に関する規程を定め、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確にしている。

成績評価については「期末成績・評価実施要領」を作成し、評価基準の統一を図り、科目間に差が生じないようにしている。また、定期試験や平常点の結果については成績入力表へ入力し、可視化を行い、成績判定内容の差を無くした。また、授業時数及び授業方法により単位数を決定し、科目履修・課程修了を認定している。

さらに成績評価、進級および卒業に関する規程に基づき、適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っている。

【今後の取組み】

成績評価については職業実践専門課程における教育課程編成委員会にて期末試験や单元ごとに実施する授業内容確認テストの内容についても意見をいただき、さらに評価精度を上げていく。

【委員の方からのご意見】

- ・適切な運用ができています。

3-5 教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか

【総括】

法令に則りかつ学校の理念・教育目的の達成に必要な人員を確保し、教員の組織体制を整備している。

また、教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のために、学内・企業団体が実施する研修へ計画的に参加することでスキル等の向上を図っている

【課題】

企業団体が主催する教員向けの研修について、定期的に教職員が参加しているが、人によって参加頻度にばらつきがある。

【今後の取り組み】

学内・企業団体が実施する研修への教職員の参加については、オンラインを含め計画的に調整していく。

【委員の方からのご意見】

- ・研修等への参加頻度の平準化には、業務負荷の調整も考慮すべきだ。弊社でも個人ごとに参加頻度に差があるときは、どの能力を向上させるかを年初に決め、年間計画に落とし込んで確実に研修が受けられる体制づくりをしている。
- ・研修参加だけでなく、自主的な学習がサポートできる制度や環境の整備ができると良いと思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S	S
3-2-6	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S
3-2-7	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上のための方策を組織的、多面的に実施しているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野および指導力に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

4-1 学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

年度初めに各学科、学年に分かれて学生の就職率、資格取得率向上及び退学率の低減等に関する成果目標を設定し、それぞれ目標を達成する取り組みを行った。リーダー会議、全体会議でその実績等成果状況を共有している。実績等を踏まえて各学年、学科で上がった改善点をリーダー、管理職と共に話し合い実践しているものの、いずれも目標水準に達していない。

【課題】

各目標数値を達成できなかった原因と対策を全員で共有する場が設けられていないため、各学科、学年によって検討、改善状況にばらつきがある。

【今後の取り組み】

各グループ、管理職でのコミュニケーションの場を増やし、問題提起や修正案を検討しながら全体会議やその他の会議の場で教職員への共有を図る。

【委員の方からのご意見】

- ・短期中期の改善ロードマップを作成し、時期ごとの目標を立ててこれを教職員で容易に共有できる仕掛けが必要である。根拠のない無理な数値目標を立てては事が進まないため、ロードマップ作成時には議論を要するが、この過程で目標の共有化ができると考える。業界の動向が学生に有利とはいえ国家試験合格率、就職率ともに良く大きくは問題がないと思われる。
- ・進路の決定率・国家試験である自動車整備士技能検定試験、2級自動車整備士合格率から見ても、貴校の支援体制は成熟しつつある印象であり、とても評価できる。
- ・PDCAサイクルが実施できていない学科・学年については、改善をお願いしたい。

4-2 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【総括】

学校法人麻生塾就職グループ（以下、「就職グループ」という。）では卒業生アンケートを定期的に行っており、卒業生の動向や就業状況に関する情報の収集を図っている。

この他、学内合同企業説明会参加企業へアンケートを実施し、そのアンケートで得られた企業からの評価や卒業生からの情報は教員用掲示板サイトを通じて共有する場を設けている。

【課題】

就職グループで実施している卒業生アンケートデータを麻生工科自動車大学校内で共有する場がない。

【今後の取組み】

就職グループと連携し、麻生専門学校グループ全体の評価や他グループ校との比較データなども共有できるようにする。

【委員の方からのご意見】

- ・弊社に従事する卒業生については定期的に調査されていた。卒業後のキャリア形成についても議論させていただいた。グループ内の情報は共有できる方がよいので今後の取組みに期待する。
- ・整備業界は早期離職が高い傾向にあると思う。卒業生からの意見をうまく活用することで、早期離職防止に役立てていただきたい。
- ・点検項目4-2-2がSになっているが課題との乖離があると感じる。今後さらに麻生塾全体でデータが共有できるようにしてもらいたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率およびコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A	A
4-1-3	資格取得等に関する指導体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	B	B
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	A	A
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

5-1 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。
一部の学科ではあるが、入学予定者に対して、オンライン教材を使用した入学前教育を行っている。
学生相談に関してはカウンセラー及びハラスメント委員を配置している。また、学生便覧に二次元コードを掲載し、気兼ねなく学生相談室の予約ができるようにした。
在校生に対して早期離職予防セミナーを開催し、キャリアデザインの機会を設けている。
学生の経済的側面に対する支援として、独立行政法人日本学生支援機構奨学金制度や学校法人麻生塾独自の奨学金制度、学費分納制度を整備し学生へ案内している。希望者には適正な審査を行っている。
学生の健康管理を担う体制として、定期的な健康診断の実施やAEDを設置するなどにより整備している。
学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置をしている。
保護者等とは、担任を軸に保護者会や三者面談などを実施し、連携を取っている。
卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった支援体制を整備している。
その他、学生の課外活動に対する支援として各クラブに顧問を置き、課外活動の活性化・支援を行っている。

【課題】

留学生を中心に新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイト活動ができず、経済的に困難な学生が増えた。

【今後の取組み】

学校に案内の来ているアルバイト情報については、状況に応じて学内の掲示板やポータルサイトを利用して学生へ周知できる環境を整える。留学生については留学生会を通じたアルバイト情報の共有を促進する。

【委員の方からのご意見】

- ・生活が安定しないと学業への影響が大きく、経済的な施策については継続して対応いただきたい。
- ・在校生の学校生活の満足度が、学校の評価、募集に直結すると思う。学生が多様化しているなかで、厳しいことも多いと思うが、ご尽力いただければと思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-7	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-8	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S	S
5-1-10	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

6-1 教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理しており、機材・備品についても整備している。

今年度は、オンライン授業やオンラインでの就職活動が多く実施されるようになってきていることから、不都合が発生していたインターネット環境の整備に取り組んだ。また、古くなったプロジェクターの入れ替えや、教室床面の清掃等学習環境の改善にも努めた。

図書コーナーについては、管理体制が整っていない状況である。

【課題】

インターネット環境の改善を図り、利用状況は良くなりつつあるが、未だ完全ではなく、様々な場面で支障をきたすことがある。

学校設備や教育備品の一覧表や管理体制の組織図が作成されておらず、担当者任せになっている。

【今後の取組み】

インターネット環境については、授業などに支障なく使用するためには、さらなる整備が必要である。今後もネット環境や備品購入等、環境整備を図っていく。

また、図書コーナーについては、稼働できるように整備し、今後は学生に利用方法などを周知していく。

【委員の方からのご意見】

- ・図書についてはITメディアとの連携で学生向け施策としてサブスク化の交渉が可能かもしれない。PCやスマホから閲覧できる環境は学生にもメリットがあるが、各コンテンツの使用状態を定量化できることから学校側にもメリットがある。
- ・IT環境の整備に取り組まれていることは、とても評価できる。
- ・専門学校としては、やはり技術教育が主だと思うので、実習車両や設備の改善にもご尽力いただきたい。

6-2 教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学外の実習施設である（一社）福岡県自動車整備振興会にて定期的に研修を受講させている。インターンシップとして、1級自動車整備科については4年次に内定先企業を基本として体験実習を実施している。

自動車整備科の実習に、企業より提供いただいた車両を使って、新たな整備実習を授業に取り入れている。

研修旅行については、コロナ禍ではあったものの、実施時期の調整や行先の調整（海外を国内へ）等を図り無事実施することができた。

【課題】

建物の老朽化により毎年修繕が必要な設備が発生している。（トイレ、壁面など）

防災訓練は、オリエンテーションでの避難経路の確認のみで実施できていない。緊急時の対応方法などについても周知できていない。

【今後の取組み】

学校法人麻生塾業務推進グループと連携しながら、施設・設備に関する予算の獲得及び適切な修繕を行い、学生の学習環境の改善を図る。

また、インターンシップ先や研修旅行の行き先については、引き続き意義や教育課程上の位置づけを確認しながら実施していく。

安全管理については、緊急時対応フローを作成し、教職員に周知するとともに、学生向けのフローを教室内に掲示し、避難訓練のスケジュールを組み実施する。

【委員の方からのご意見】

- ・設備改善にも取り組まれていることを現認している。
- ・計画的な改善・補修をお願いしたい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B	B
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	A	A

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

7-1 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。

募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

また、校納金については健全な設定がなされている。

【課題】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン試験（筆記、面接）が増えたため、対面に比べ受験者の個性や能力の把握が以前より困難となっている。

【今後の取組み】

麻生専門学校グループ校及び各種専門学校の情報を収集し、アドミッション・ポリシーに則した募集活動を行っていく。

入学者選抜方法については、様々な受験形態に対して十分な選抜方法となるように各種の試験方法を精査していく。

【委員の方からのご意見】

- ・18歳人口の減少に対して留学生を受け入れて必要な生徒数を確保するなど施策を講じていることを確認できた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は小さくなっていく動向にあり、面直に戻すことで課題対応は可能と考える。
- ・長期的には自動車に興味を持つ人口が減る傾向は否めず、弊社も志望者減少という同じ危機感を持っている。自動車業界として産学官の連携を進めている施策もあり情報共有を進めていきたいと考える。
- ・留学生など多様化が進む中においても、アドミッション・ポリシーに沿った正当・公正な選考を実施することが肝要である。随時、選考方法の評価と改善を行い、適切な選考にご尽力いただきたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金（学生納付金）等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

8-1 教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

予算計画を策定し、必要に応じて前年度対比分析を行っている。重要な差異が生じた場合には、原因の特定や問題点の把握を行い、適切に対応している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、財務情報公開の体制を整備し、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による財務分析等の取組みを継続的に行っていく。その取組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

- ・適切な運用が行なわれているように思う。
- ・永続企業体にするためには、財務基盤の適切な運用が必要不可欠であるため、今後も継続していただきたい。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

9-1 法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。

法令等遵守に関する啓発や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、関連法令に基づいた規程に従い業務を行っている。

法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生時に対応する通報システム等の体制も整っている。

【課題】

現状特に問題は起きていないが、定期的な研修会が実施できていないため理解度や行動を確認する機会がない。

【今後の取組み】

麻生専門学校グループ校一同が参加する委員会での内容を全体会議で情報共有し、全教職員の法令に関する意識を確認する。

【委員の方からのご意見】

- ・弊社では、コンプライアンスの学習と理解度確認にeラーニングの学習+Q&A形式のコンテンツを用いて学習時間と理解度を定量化している。本件は工科自動車大学校に限定されるものではなく麻生専門学校グループ全体で同じコンテンツを利用できると思う。
- ・法令遵守のためには、会社全体で取り組んでいくことが欠かせない。法令遵守の重要性や遵守に必要な知識を社員全員に共有できるようにご尽力いただきたい。
- ・また、相談窓口の設置や社内規定及び人事制度の定期的な見直しにもご尽力いただくことで、コンプライアンス遵守がしやすい環境を整えることができると思う。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
9-1-1	専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

10-1 教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。

学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取り組みを行っている。また、自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題】

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられるため、効率的に改善を行えていない。

【今後の取り組み】

自己点検・評価活動に教職員全体で関わられるようにするとともに、改善計画について進捗状況の確認と修正を定期的確認する。

【委員の方からのご意見】

- ・年度初め目標立案、定期的な（経験上インターバルは3～6か月ごとに帰着しがち）成果相互確認会、年度末まとめ、の地道な繰り返しによる改善が肝心だと考える。
- ・制度に基づいて、適切に運用されているように思う。
- ・変革（改善の取り組み）を行う上では、組織メンバー全体が問題を共有するということが変革のスタートであると思う。
- ・定期的に自己点検・評価の内容を伝える「場」を設け、組織全体で問題解決に向かって取り組んでいただきたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	B	B
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

1 1 - 1 公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

社会貢献事業の一環として、文部科学省による自動車整備の授業教材の開発事業に参加し実証実験を実施した。

学生のボランティア活動については、「留学生会」（麻生専門学校グループの一部の学校に所属する留学生で構成する会）にて地域清掃のボランティア活動を行った。

【課題】

小学生対象の職業体験等、コロナ禍で実施できない活動があった。

ボランティア活動に限られた組織内での実施に留まった。ボランティア活動の情報が一元化されておらず情報が共有できていない。また、活動実績を把握できていない。

【今後の取組み】

小学生対象の職業体験の再開を計画中である。新たに中学生を対象とした自動車体験イベントを計画する予定である。

ボランティア活動については対象範囲を広げるなど新たな取り組みを検討していく。ボランティア委員会を中心に行事予定や名簿を作成し情報共有に努める。

【委員の方からのご意見】

- ・コロナ禍影響前までの取り組みに戻つつあることを理解した。地元町内会からもイベントのお誘いがあり友好な関係が築かれている。小中学校生の体験イベントに対しては長期的な視点の説明を受け公共性にも十分配慮されていることを確認できた。
- ・小中学生の職業体験イベントは自動車整備業界について周知できる良い取り組みだと思う。実現できるようにご尽力いただきたい。
- ・東比恵校区でのイベントの計画をしていただきありがたく思っている。今後も夏祭り・ゴミ拾い等できるだけ参加をお願いしたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1 1 - 1 - 1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S

基準 1 2 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

1 2 - 1 留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。

留学生に対する相談体制を整えるために、各クラス担任及び担当主任が、在籍している留学生対象に在校生アンケートを実施し、そこで得られた意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。

昨年度は世界的な感染リスクを鑑み、渡航留学プログラムを一時中断してオンライン留学制度に切り替えていたが、今年度は感染リスクの低減した一部国において、渡航留学プログラムを再開した。留学プログラムについては、麻生専門学校グループ内の留学担当部門が説明会や学生向け・保護者等向けのオリエンテーションを実施し、必要に応じて個別面談・アドバイスをを行った。また、外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応するなど、海外留学全般に対する支援を適切に行っている。

【課題】

留学生の支援組織として「留学生会」が発足しているが、一部の学生間でのコミュニケーションに留まっている状況である。

【今後の取組み】

留学生会を通じて、学校が留学生間の課題や要望などを聞き取り、さらに支援できるようにしていく。

【委員の方からのご意見】

- ・インドネシアの総合大学と提携するなど国際交流に力を入れている。早期から海外目線の活動を進めており、教職員交流や学生研修には弊社工場視察の実績もありしっかりとした体制で運営されている。
- ・留学生の受け入れには、様々なリスクが伴うと思う。管理体制や制度をさらに強化し、リスクヘッジを行っていただきたい。
- ・留学生については、入国後数か月以内にみなし輸出管理の手続きが必要なケースがあるため、今後日本語学校を経由せずに母国から直接御校への入学者は注意が必要と思う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
1 2 - 1 - 2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上